

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成27年2月19日(2015.2.19)

【公開番号】特開2013-152595(P2013-152595A)

【公開日】平成25年8月8日(2013.8.8)

【年通号数】公開・登録公報2013-042

【出願番号】特願2012-12863(P2012-12863)

【国際特許分類】

G 06 T 7/00 (2006.01)

【F I】

G 06 T 7/00 350 B

G 06 T 7/00 300 F

【手続補正書】

【提出日】平成26年12月26日(2014.12.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

入力画像から認識物体を認識する認識部と、

時系列で変化するスコアを有する特徴量を用いて、フレーム毎の前記認識物体の前記特徴量を学習する学習部と

を備え、

前記認識部は、前記学習部の学習結果として得られた前フレームの前記特徴量に基づいて、現フレームの前記認識物体を認識する

情報処理装置。

【請求項2】

時系列で状態が変化する前記認識物体を含む学習用画像から、フレーム毎の前記認識物体の前記特徴量を事前に学習する事前学習部と、

前記事前学習部の学習結果として得られたフレーム毎の前記特徴量の前記スコアを事前に計算する計算部をさらに備え、

前記学習部は、前記計算部により事前に計算された前記スコアに応じた前記特徴量を用いて、前記入力画像のフレーム毎の前記認識物体の前記特徴量を学習する

請求項1に記載の情報処理装置。

【請求項3】

前記計算部により事前に計算された前記スコアを有する現フレームに対応する前記特徴量から、所定の閾値より高いスコアを有する前記特徴量を選択する選択部をさらに備え、

前記学習部は、前記選択部により選択された前記特徴量を用いて、現フレームの前記認識物体の前記特徴量を学習する

請求項2に記載の情報処理装置。

【請求項4】

前記学習部の学習結果として得られた前記特徴量を記憶する記憶部と、

前記記憶部に記憶されている前記特徴量を、前記学習部の学習結果に応じてフレーム毎に更新する更新部をさらに備え、

前記認識部は、前記更新部により更新された前フレームの前記特徴量に基づいて、現フレームの前記認識物体を認識する

請求項1乃至3のいずれかに記載の情報処理装置。

【請求項5】

前記選択部は、前記記憶部に記憶されている前フレームの前記特徴量から、他の閾値より低いスコアを有する前記特徴量を選択し、

前記学習部は、前記選択部により選択された前記特徴量を除いた前記特徴量を用いて、現フレームの前記認識物体の前記特徴量を学習する

請求項1乃至4のいずれかに記載の情報処理装置。

【請求項6】

前記更新部は、前記事前学習部の学習結果として得られた前記特徴量を、前記学習部の学習結果に応じてフレーム毎に更新する

請求項4または5に記載の情報処理装置。

【請求項7】

入力画像から認識物体を認識する認識部と、

時系列で変化するスコアを有する特徴量を用いて、フレーム毎の前記認識物体の前記特徴量を学習する学習部とを備える情報処理装置の情報処理方法であって、

前記情報処理装置が、

時系列で変化するスコアを有する特徴量を用いて、フレーム毎の前記認識物体の前記特徴量を学習し、

前記学習部の学習結果として得られた前フレームの前記特徴量に基づいて、現フレームの前記認識物体を認識する

ステップを含む情報処理方法。

【請求項8】

入力画像から認識物体を認識する認識ステップと、

時系列で変化するスコアを有する特徴量を用いて、フレーム毎の前記認識物体の前記特徴量を学習する学習ステップと

を含む処理をコンピュータに実行させ、

前記認識ステップは、前記学習ステップの学習結果として得られた前フレームの前記特徴量に基づいて、現フレームの前記認識物体を認識する

プログラム。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0096

【補正方法】削除

【補正の内容】